

# 宮古島で、本土で児童ら交流

## 泊小児童、そば作り体験 宮古島で離島宿泊交流



離島体験学習促進事業で宮古そば作りを体験する泊小学校の児童ら＝宮古島市の体験工芸村

【宮古島】沖縄本島の

小学生が離島地域の魅力や困難性を実感するために離島体験学習促進事業がこのほど、宮古島など5島で開かれた。宮古島市を那覇市立泊小学校(長尾栄正校長)の38人が訪れ、農業体験や地元子どもたちとの交流を

楽しんだ。

泊小の児童らは、12月26日に同市総合博物館で宮古の歴史を学んだ後、城辺公民館で交流会を開きレクリエーションなどを楽しんだ。27日には畜産農家で牛の餌やりや野菜農家でゴーヤーの収穫などを体験し、午後には

池間湿地で野鳥の生態観察などをした。28日は同市の体験工芸村で工作やそば作りをした。

同事業は、沖縄本島の住民が離島への関心が低い現状を踏まえ、将来を3年間実施される。

子どもたちも「ごろ味わえない離島の生活を楽しんだ。6年生の羽賀万葉君(12)は「ゴーヤーの受粉と収穫をした。全部楽しかった」と笑顔を見せ、初めて宮古島を訪れたという渡眞利祐紀君(12)は「サトウキビがおいしかった。また来てみたい」と話した。

担う児童生徒が離島の重要性などへの認識を深め、本島との交流促進に よって離島の活性化を図ることを目的に実施された。2012年度までの